

り、さて煉り合せて、ブリキの箱に入れて冷して
 かたむるなり、切方は好次第にてよろし。

砂糖、鹽の入れかた何たびも試みてつくるべ
 し。

(な)

長崎煮生姜

生姜をへぎて、砂糖、醬油にて煮染て、道明寺糖
 をかけて出すべし。

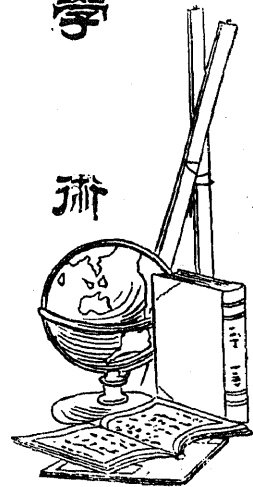
なまりかつを

なまり鯉をひろして、廻りに竹串をあて蒸にて巻
 て、わら火にて焼て、さきて、煎物、又は敷葛な
 どにて出すべし

しきくずとは、あんかけの如く、葛粉をときて
 醬油と味淋とを合せたる汁に入れてあんにつく
 りたるを椀のそこに平らにしき入ることなり

學

術



蜜蜂の話

在農科大學 驚 水

蜜蜂と申すものは諸君も御存じの通り余程伶俐
 な虫でありまして昆虫類も多き中に、蟻と此蜜蜂
 はどよく労働に堪へそうして規律の正しきものは
 ありませぬ。

蜜蜂は實に團体心に富だ動物でありまして、常
 に少くも一万五千匹多きは三万匹以上も群居して
 居ります、冬は其巢の中に蟄居して居りますが、
 春にもなりて野山の花がちらほら咲き初める頃と

なりますと、そろ／＼出掛けて働かはしめます、

寒暖計の七十度内外即ち四五月頃ともなりす

と世間は花のさかりで採集する所の蜜は野にも山

にも満ち／＼て居ります、巢の内にはずん／＼子

供が生れて同族は日々蕃殖して参りますから各

其擔任の部所に付て一生懸命に働きて冬籠の準備

をします、そうして極大暑中は暫く労働を中止す

るのでありますすが實によく定たものであります。

蜜蜂と申ても種類の多きものでありますして委し

くいへば一朝一夕に盡すことではありませぬから

極めて簡単に述る積りであります 然し其

種類

の大別だけでも日本蜜蜂の外に 獨逸蜜蜂、伊太

利蜜蜂、埃及蜜蜂、亞弗利加蜜蜂、マダカスカル

蜜蜂、とかやうに別れて居りまして皆それ／＼に

特長があります。日本蜜蜂などは性質が温和で能

く働きますが、他國のものに比して大群をなす事

が少い、それと採集方が複雑なためがあまり

す、伊太利蜜蜂などは日本蜜蜂よりは其体も大く

採集方も非常に周到であります。

併て其一團の内には

雌蜂

は一匹より外ありませぬ、即ち其れを蜂王とも、

女王とも申しまして、一群を統御して居りますの

と卵を産むのが女王の職務であります。

雄蜂

は一群の中に、八九十から百より、多きは千もあ

りましよう、其れを遊蜂または居候といひます。

其居候は蜂王に交配するのが役目であります。其

他の二萬乃至三萬もある蜂は皆

働蜂

といひまして、これは雄とも雌ともつかぬ中性のものであります、此働蜂はそれ／＼部所を定め働きます、或は巢を造るもの、花粉をとるもの花蜜を吸ひ來るもの、粘蠟といつて巢の材料になるものを求むるもの、水を運ぶもの、番兵の任にあたるもの、斥候に出るもの、内に居て子供の養育を受持つもの、巢の掃除をするものと、皆それ／＼定まつて居まして、其職々を、脇目もふらずに働くのであります。

蜂の形は、雄蜂は後体が圓くなつて居て、蜂王は長く尖つて居ます、働蜂も尖つては居りませうか蜂王の様には、長く尖つては居ない、また蜂王の持て居る刺劍は、彎曲形であります、これは、單に護身用でありますが、働蜂のは其れと變つて、此

劍を利用して、色々仕事がありますから、蜂王のとは形も違つて真直であります。

そうして雄蜂は劍はありませぬ、働蜂は自分で花粉や花蜜を取て來て、其れを食しますが、蜂王と雄蜂は、常に其働蜂に給養されて居るのであります。

此群蜂の中にて、蜂王の勢力といふものは、非常なものであつて、其巢房なども別になつて居て働蜂が多くよつて種々滋養物などを澤山供給します。

蜂王は前にも述べました通り、産卵の職務がありますから、化生後三日も立つと巢から出て雄蜂に交接します、その交接後、四十八時間すると産卵を始めまして、其れから毎日／＼、多くの卵をうみます、凡そ一日に少くも七八百、多きは二三千

も産みて、一年には四万乃至七万位を産みます、
そして蜂王は四五年から八九年位も生存するもの
であります。

もしまた蜂王が死するか、或は産卵をしなくな
ると新に生れた蜂の内から撰出して、其れに働
蜂が非常に滋養はかりを給して、新しく蜂王を仕
立てる事があります。

そこで

分封

といふ事があります、其は五月の初めから、六月
の末までには、蜂の数が非常にましますから、其
内に新蜂王を選んで、其れを仕立て、其新蜂王の
十分發育した時を見て、新居を求めて、一群分離
する事があります、まづ舊蜂王が、一群即ち働
蜂一万五千程、雄蜂百程を率ゐて、其れにまた、

當分の糧食と、蜂の巢の材料なども悉く用意して
行きます。

いざ分封といふ時になると、其一群はうち揃ひ
て舊巢を二三回週翔して、其後大木の枝などに群
集して、先に出しやりました斥候蜂が適當の場處
を報告するのを待て居ります。

やがて斥候蜂が歸りて来て、蜂王につげますと、
それからまた一群整々と新封土にくり込みます、
万一此途中で蜂王が死す様な事でもあると、群蜂
は悉く秘散して舊巢に歸ります、決して自分等の
みで新巢を經營する事はありませぬ。

養蜂家は此分封期を利用して箱の數を増加する
のであります、其を人工分封といひまして、其につ
さての方法などは述べ立てますれば限りがあります
せぬから、悉く略しまして、他日また詳しく述る

事もありましよう」

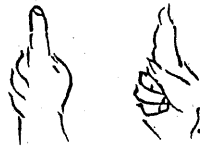
眼の 話 (其二)

在福井 本 郷 生

ランプと凸レンズとにて得らるゝ如き倒しまなる像が網膜上に出来るとせば、物は常に倒に見えねばならぬ、さるを、實際然らざるは何故ぞとは余が學生より屢聞く質問であります、之れは深く考ふれば何も怪しむに足らぬことで、つまり人間が幼時より直立したるものに遇へば、常に必ずその倒さの像を網膜上に得たるが爲め、長さ経験の結果で倒しまなればこそ直立して見ゆるやう至りたるのであります。

次に來る質問は、物の像は二つの目に一つ宛出來るにも拘はらず、吾れ等が之を二つに見ずして

一つと見るは何故ぞと云ふことであります、讀者此疑問に答へんとせば、先づ試みに鉛筆を出し指を以て左右何れか一方の目の下を強く壓しつゝ之れを御覽んなさい、其鉛筆は二つに見えます、否



鉛筆に限らず其邊にある時計も筆筒も書物も花瓶も其計も筆筒も書物も花瓶も其他凡てのものが二つに見えます、次に又二本の指を四五寸隔て、鼻先さに出すと左圖の如くし、其何れか一方に注目して御覽んなさい、他の一本は必ず二本に見えます、此等の現象は一見吾人を迷はすもの、如く見えますが、實は上の疑問に對して吾人による説明を與ふる材料となるものであります。今少